

成人  
指定  
ADULTS ONLY



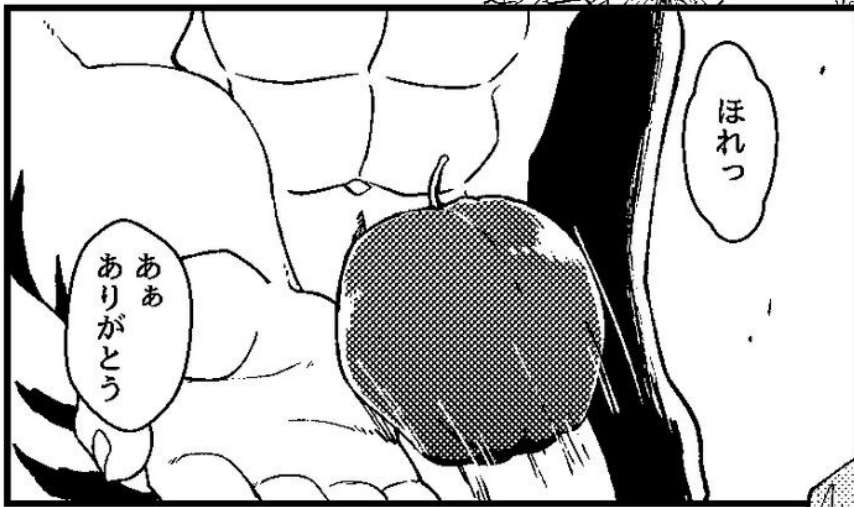
刀

K.A.T.A.N.A.

— 第三幕 —



ザンゲ!



ああ  
ありがとう

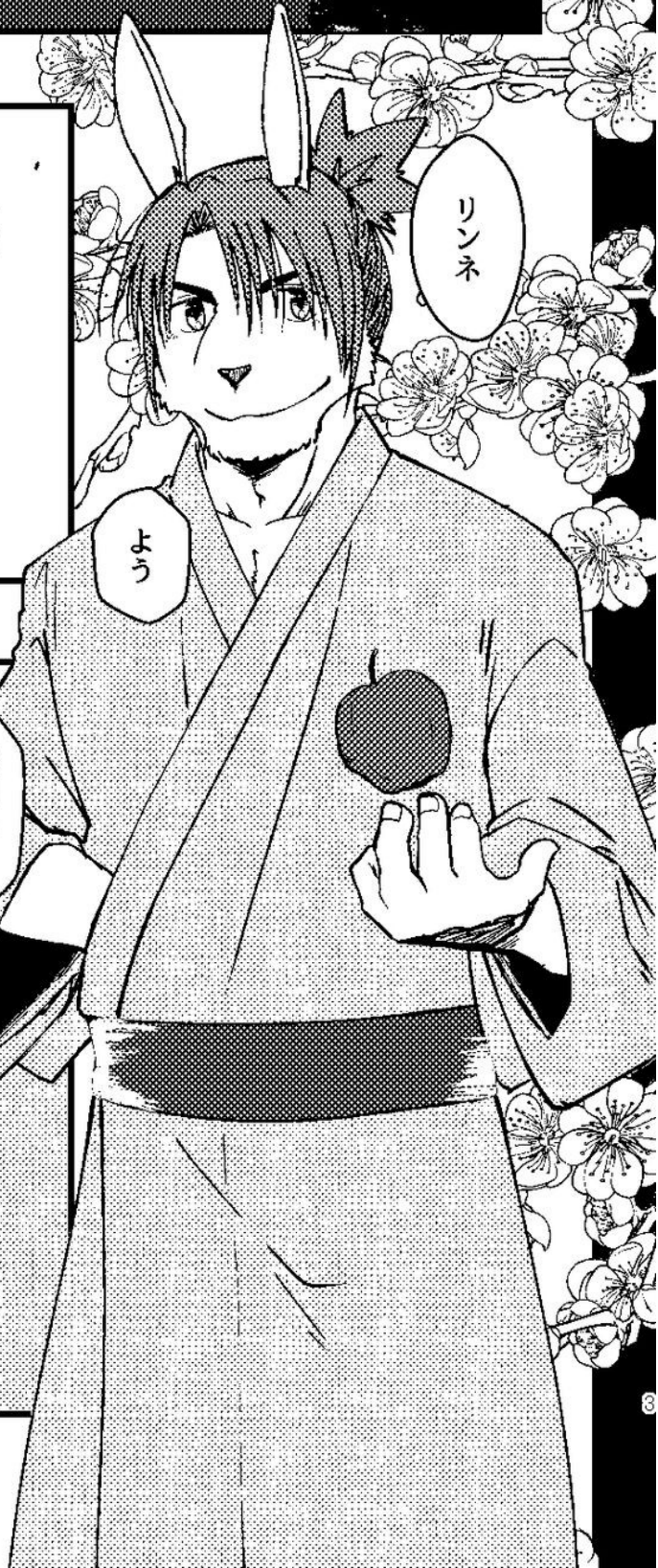
ほれっ



ああ

丁度休憩  
しよう  
思っていた  
ところだ

今日も  
鍛錬か?



リンネ

よう



リンネとは  
幼馴染だった

孤児院で  
同じ釜の飯を食い  
寝食を共にした



どうした？

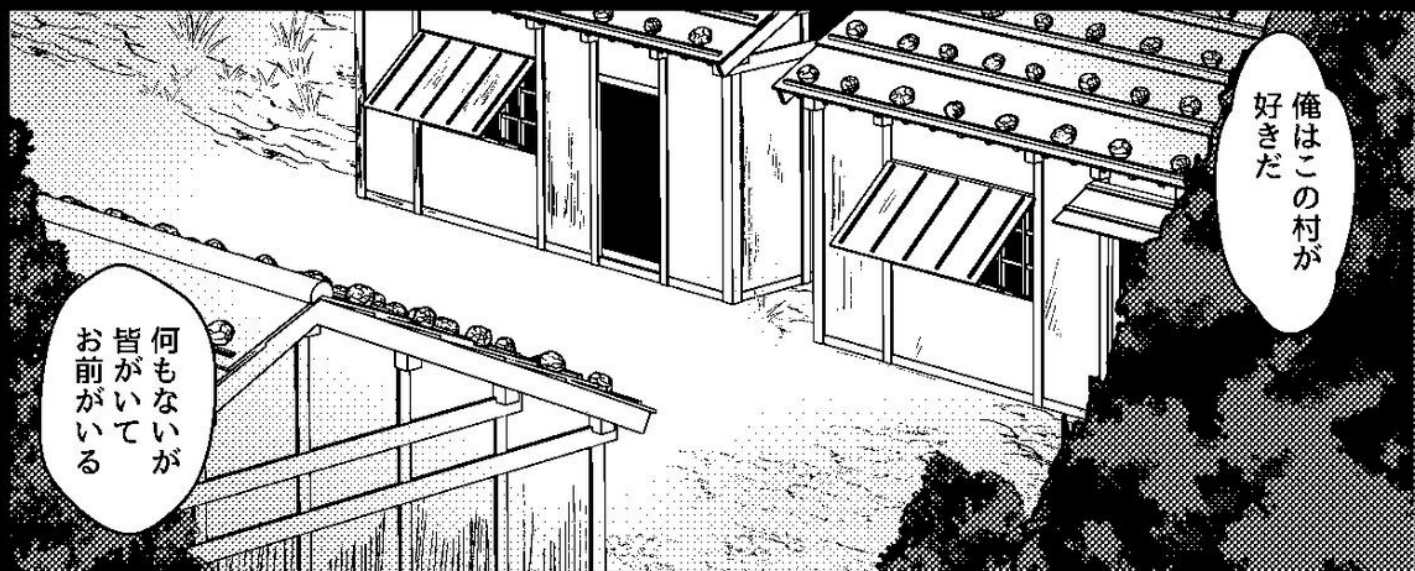
なあザンゲ



いや  
なにも……



ん？  
どうかしたか？



俺はこの村が  
好きだ

何も無いが  
皆がいて  
お前がいる



俺は剣術で  
お前は神道で  
この村を  
守っていこう



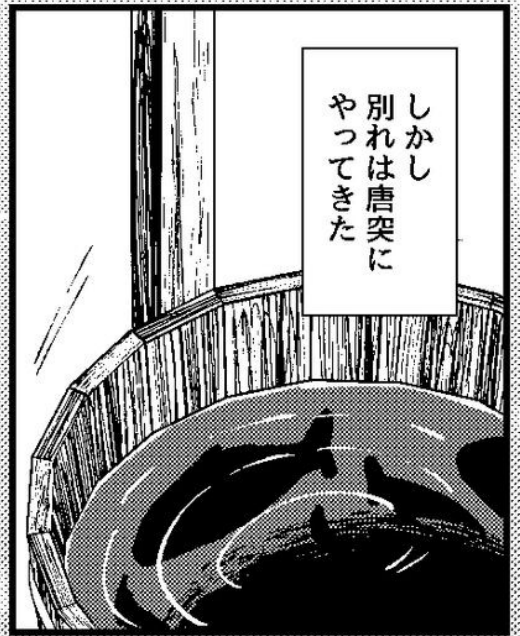
ああ

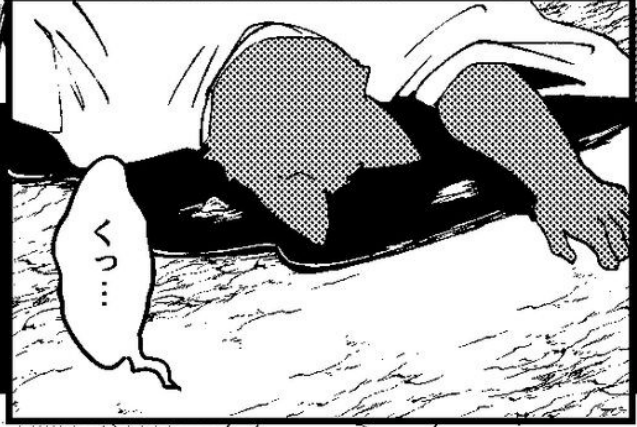


リンネは  
不思議な  
奴だった

そこに  
いるだけで  
場が明るく  
なるような…

そして俺は  
そんなリンネの  
事が……







何が最後だ！  
何があった！



よかった…

最後に  
逢えて…



……天狐って  
奴らが…  
突然村を……

天狐だな！  
わかった！  
すぐ医者に  
行くぞ！

ザンゲ…

何だ



この日俺は  
神を信じる事を  
やめた

そして復讐の為に  
天狐を調べたが  
何一つ手掛かりは  
掴めぬまま長い月日が  
過ぎ去った



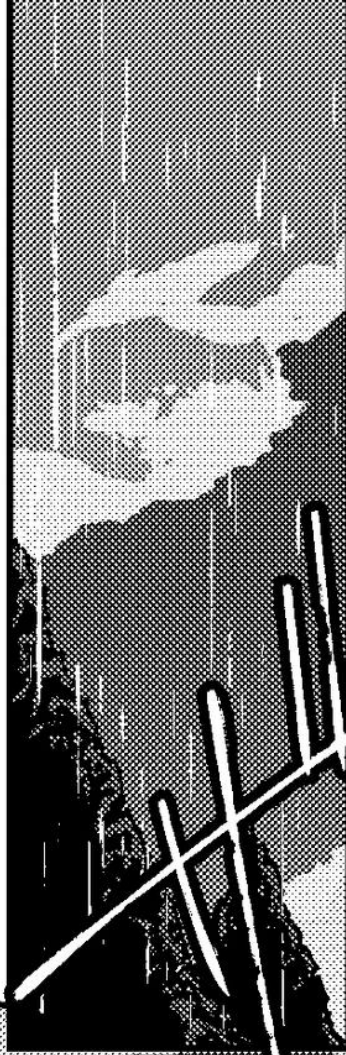
ザンゲ…  
俺は…  
お前の…  
ことが…



リンネ！  
リンネ！

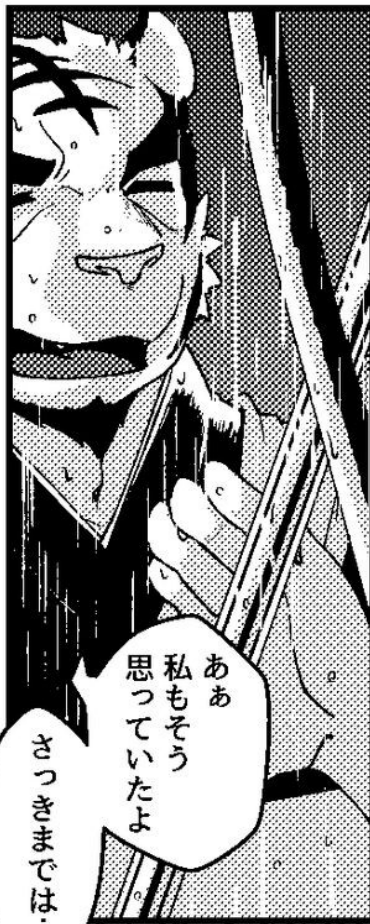


死ぬな！  
死なないで  
くれ！





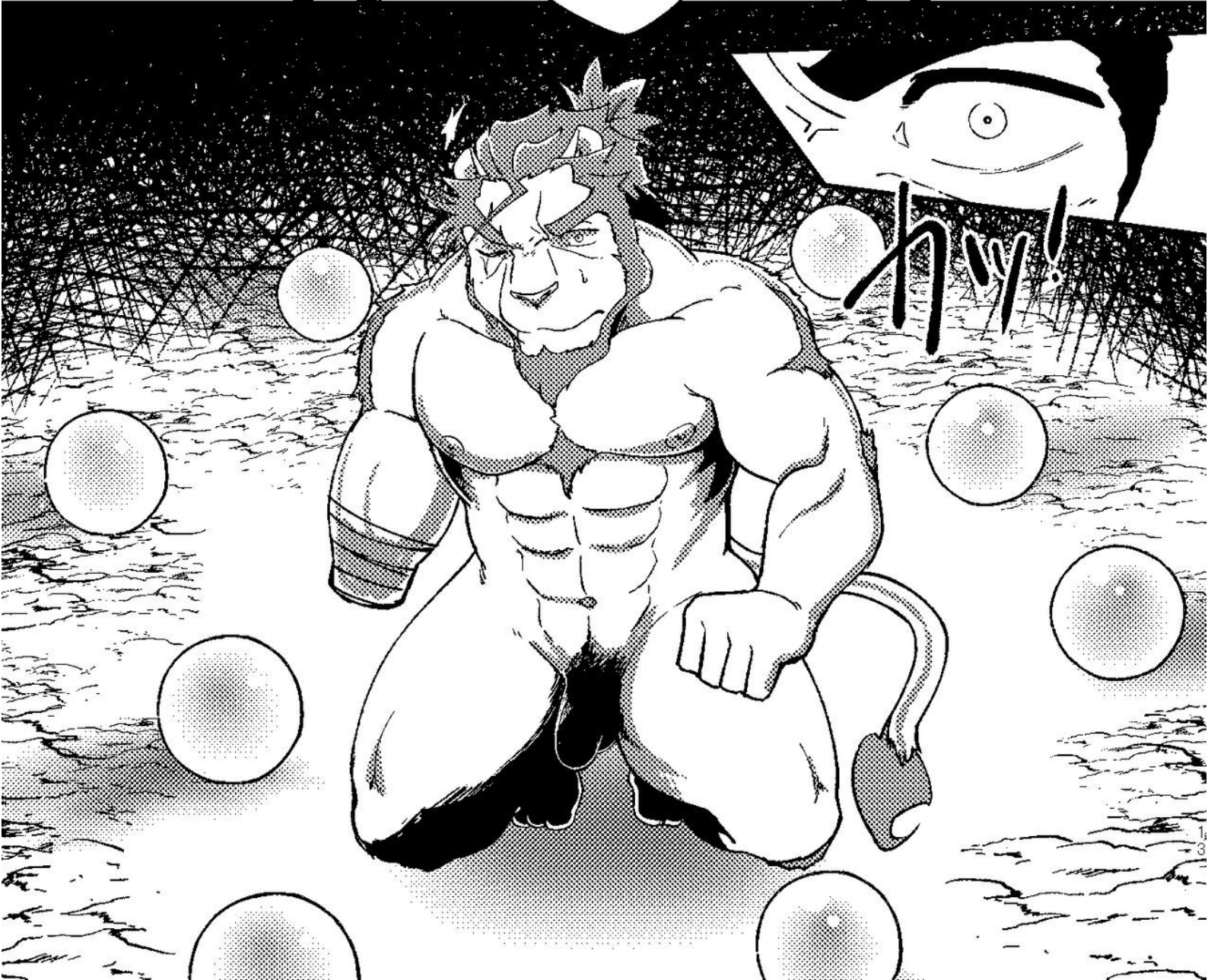




ああ  
私もそう  
思っていたよ  
さっきまでは...

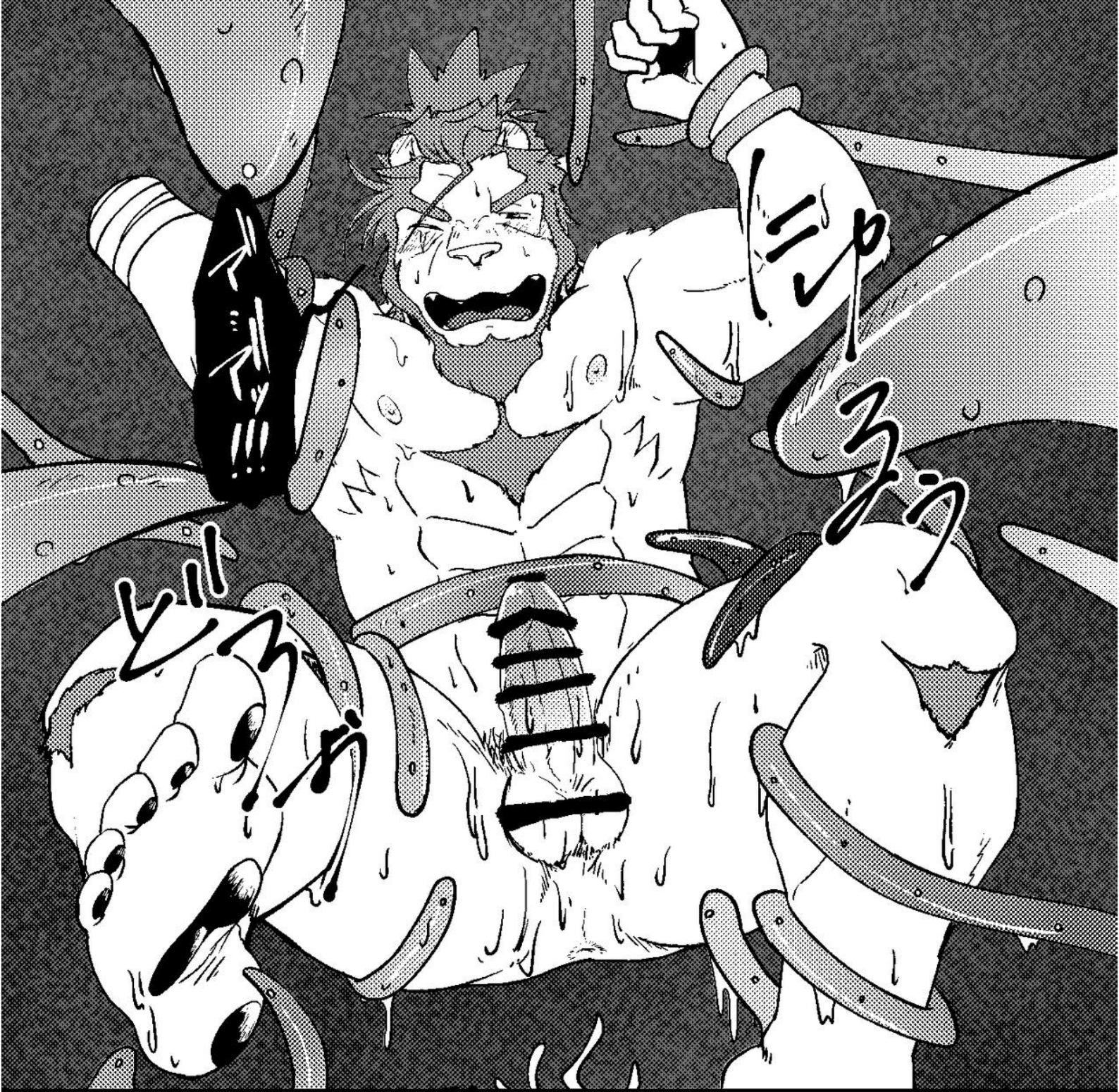
ザンゲ……  
俺はお前とは  
戦いたくない

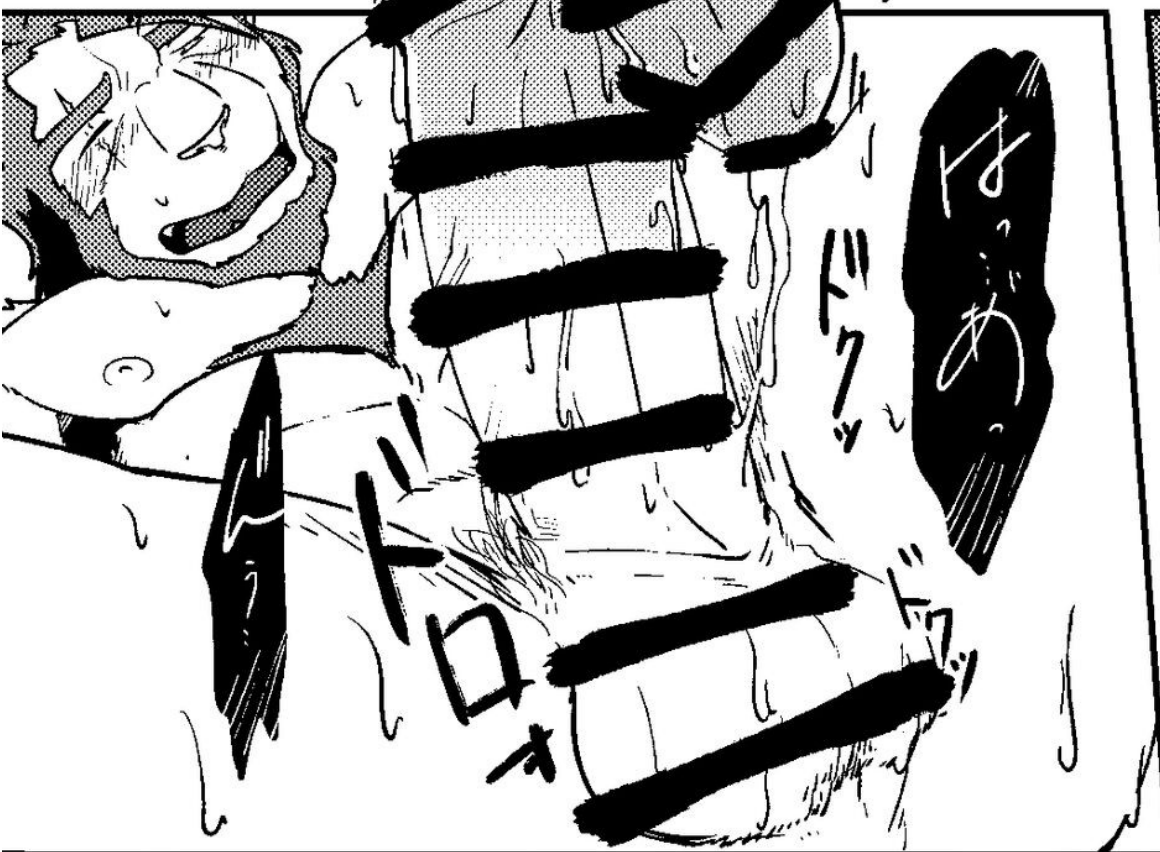














ははははは

どうだ？  
カタナ殿

人外に  
犯される  
気分は

犬畜生にすら  
倅<sup>もと</sup>るではないか

これでは  
交尾にもなって  
おらんぞ

恥ずかしく  
ないのか？

ヒトの尊厳も  
まるで無いな

それとも  
こういうのを  
求めておられたか？

永遠に終わらない  
罰を望んでいたの  
だろう？



身体は悦んで  
おるではないか

ははは



これでは罰なのか  
褒美なのか  
わからぬなあ?

アッ



まさに  
獣以下と言った  
ところか

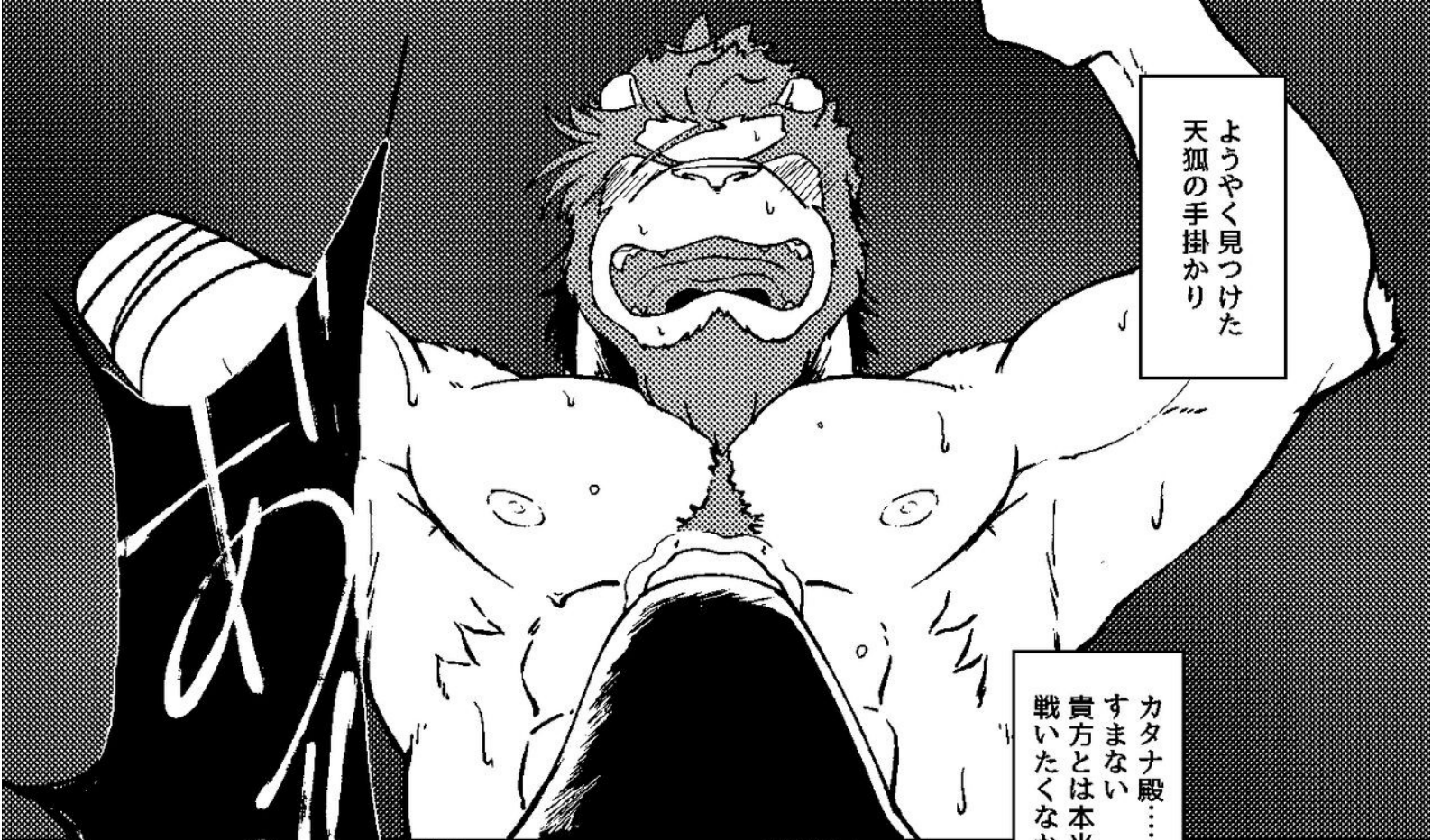
「アッ」  
貴の足で与えられ  
勝たなかったの  
だろう？

しかし身体は  
どうしようもなく  
淫乱のようじゃあ  
ないか

大方  
あの弟子との  
姦淫も本当は  
悦んでいたの  
だろう？


ははは  
また気を  
やったか





ようやく見つけた  
天狐の手掛かり

カタナ殿……  
すまない  
貴方とは本当に  
戦いたくなかった



しかし  
私はそれでも  
リンネを……



うっは……



空に海

月が二つ…

うっは……



なんとという  
無茶苦茶な  
風景なのだ……

これでは  
まるで地獄……



カタナ…殿…？



なぜ  
何故自分の  
精神世界で  
斯様な姿で…



オレサマの  
縄張りに入ってきた  
莫迦野郎はア？



誰だア？



か、  
体が……!

クククツ……

命知らずの  
莫迦め……



無事で済むと  
思うなよ

土足でオレサマの  
縄張りに入って  
眠りを妨げて

もう  
目覚めちまった  
からなあ

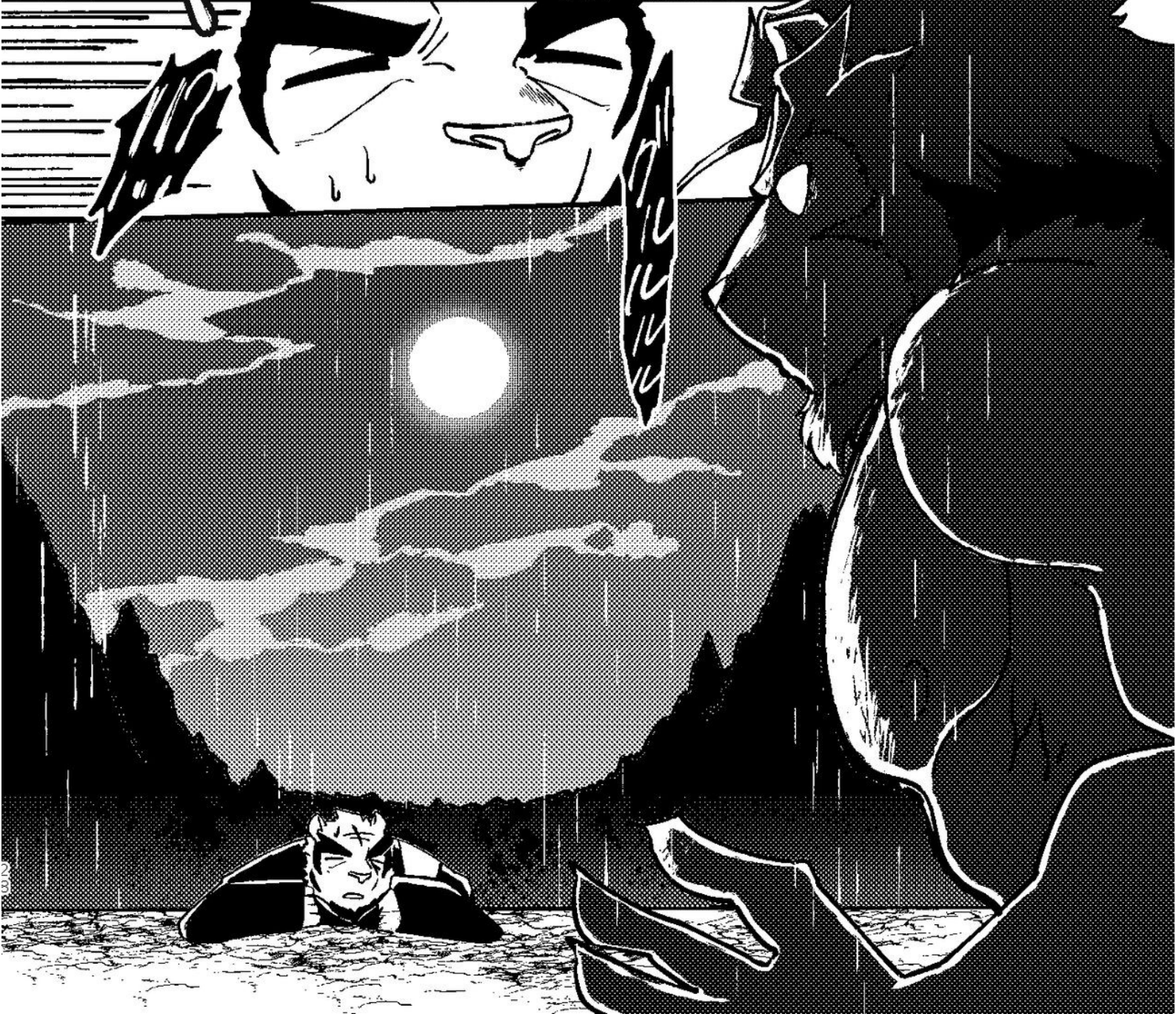


後悔しながら  
死んでゆけ

徐々に効く  
死の呪いを  
くれてやる

クククツ







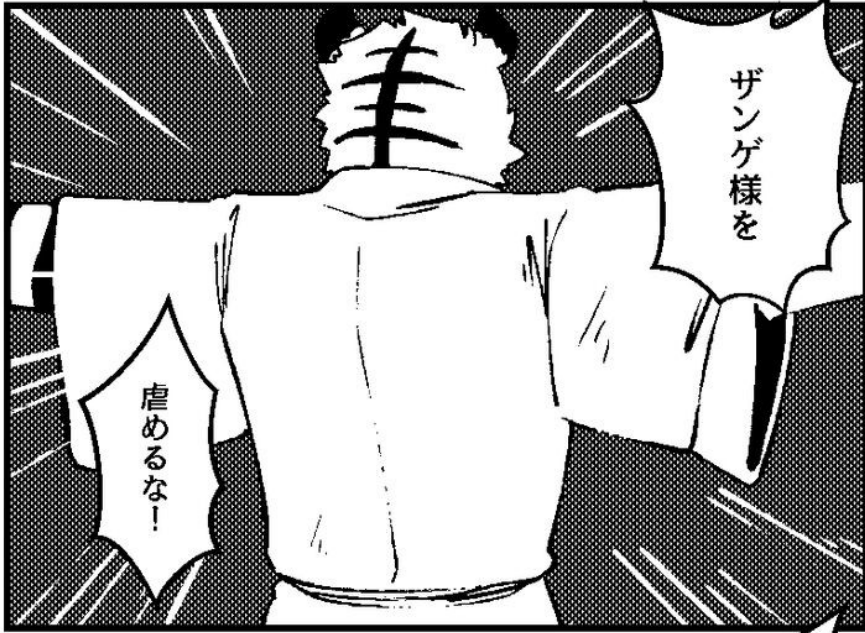


ああ……

死  
……



これでやっと  
リンネの元に……





カタナ殿!

私の  
負けだ!

頼む!

やめて  
くれっ!



私は!

これ以上  
大事なものを...

ザンゲ様...  
どうか  
ご無事で...



くっ...!

カキーン!



ああ...!



!!?





誌名 K.A.T.A.N.A.-第三幕-  
発行日 2018年4月30日  
発行 花吹雪ゴリラ  
発行者 ゆうご  
印刷 くりえい社

PIXIV:3346541

Twitter:@u5rilla\_ktzk

このお話はフィクションです。  
実在の人物、団体、組織等とは  
一切関係ありません。

この本をネットオークションに  
出品したり、インターネット上に  
転載しないでください。

【THANKS】

パオマー(@PaoMer\_tan)

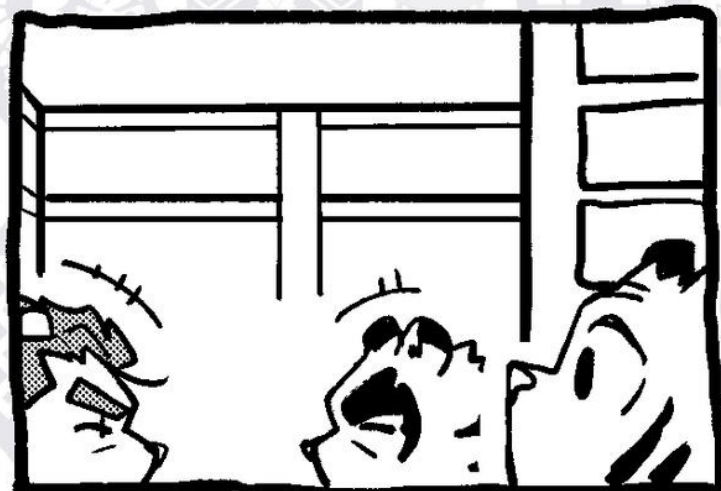
**K.A.T.A.N.A.**



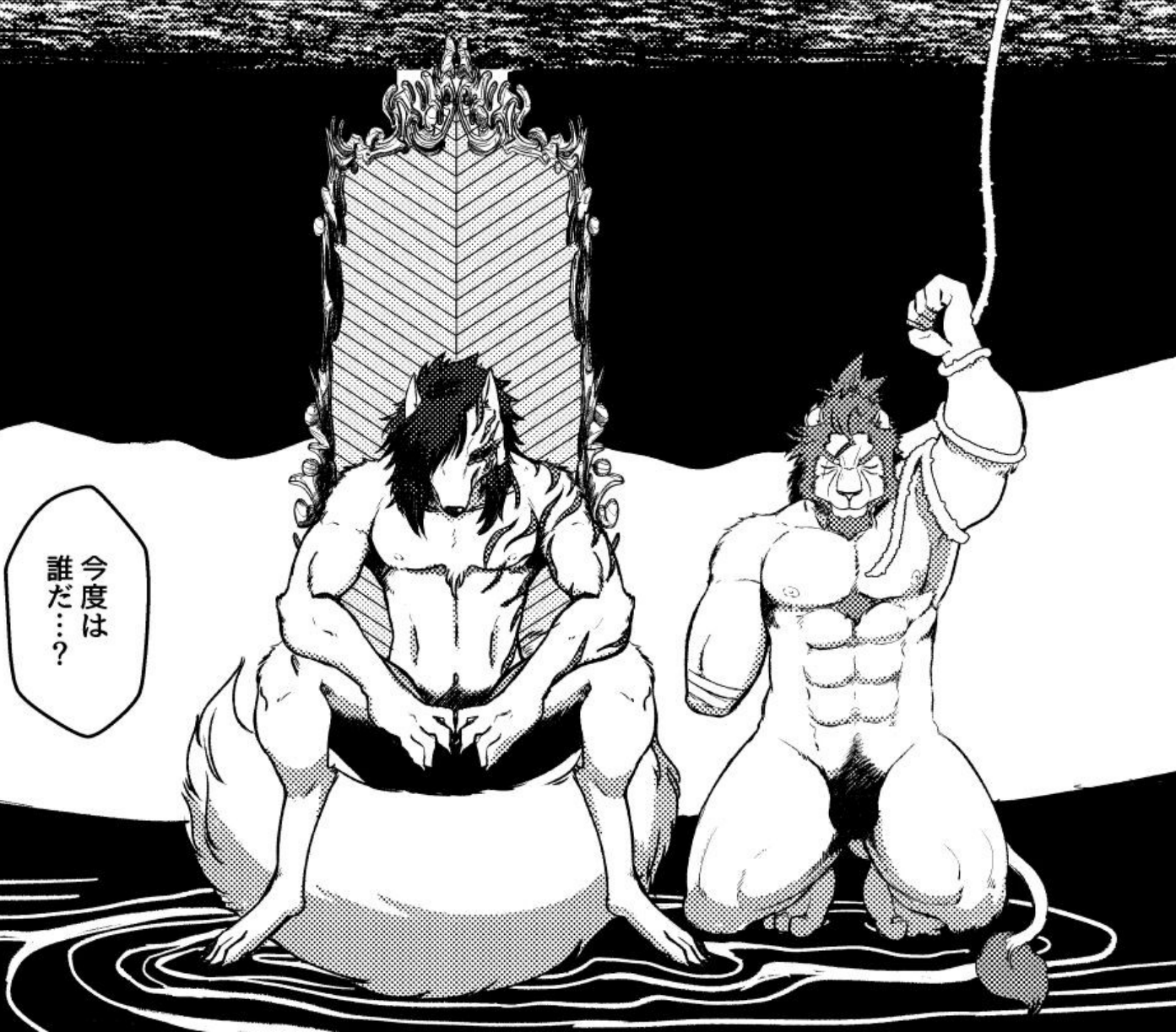
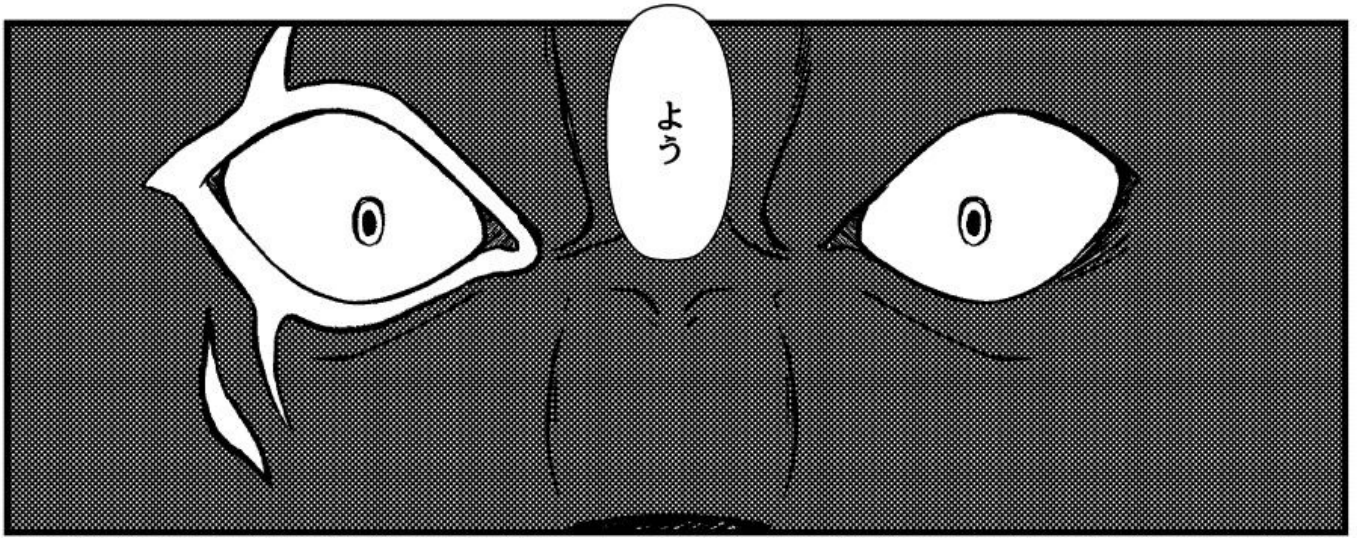
**LINEきせかえ**

かオオ!カタナさん

※第二幕の時の話







おっ？

こりやあ  
おもしろえ！

どこのどいつかと  
思えば

オレサマを  
一部喰った大莫迦な  
タチキリじゃねえか

天狐オ

そろそろ全部  
俺の方に来たら  
良いじゃあねえか

ハッハッハ！

タチキリ！  
やっぱオメエは  
おもしろえ！

見ろ！  
この  
混沌とした  
風景を

無茶苦茶だろ

空に海  
月は二つ

コイツの精神は  
常に矛盾に  
まみれている

テメエみてえな  
綺麗な精神  
つまんねえんだよ

まあ  
テメエ自身は  
気に入ってるから

オレサマの妻くらいには  
してやらんこともないがな







うるせえよ

テメエの世界は好きだが

テメエは  
気に入らねえ



安心しな

時間をかけて

テメエを蝕んで  
やるからよ

見も心もな



フン

そういえば  
天狐ヨオ

コイツの弟弟子の  
ありやなんだ？

ああ？

知らねえな

あらかたオレサマの  
残り滓みてえなもんだろ

まあそれでも

カとしては  
十分巨大だろうがな



来な  
拳同士で  
とことんやろうぜ



良い顔  
じゃあねえか







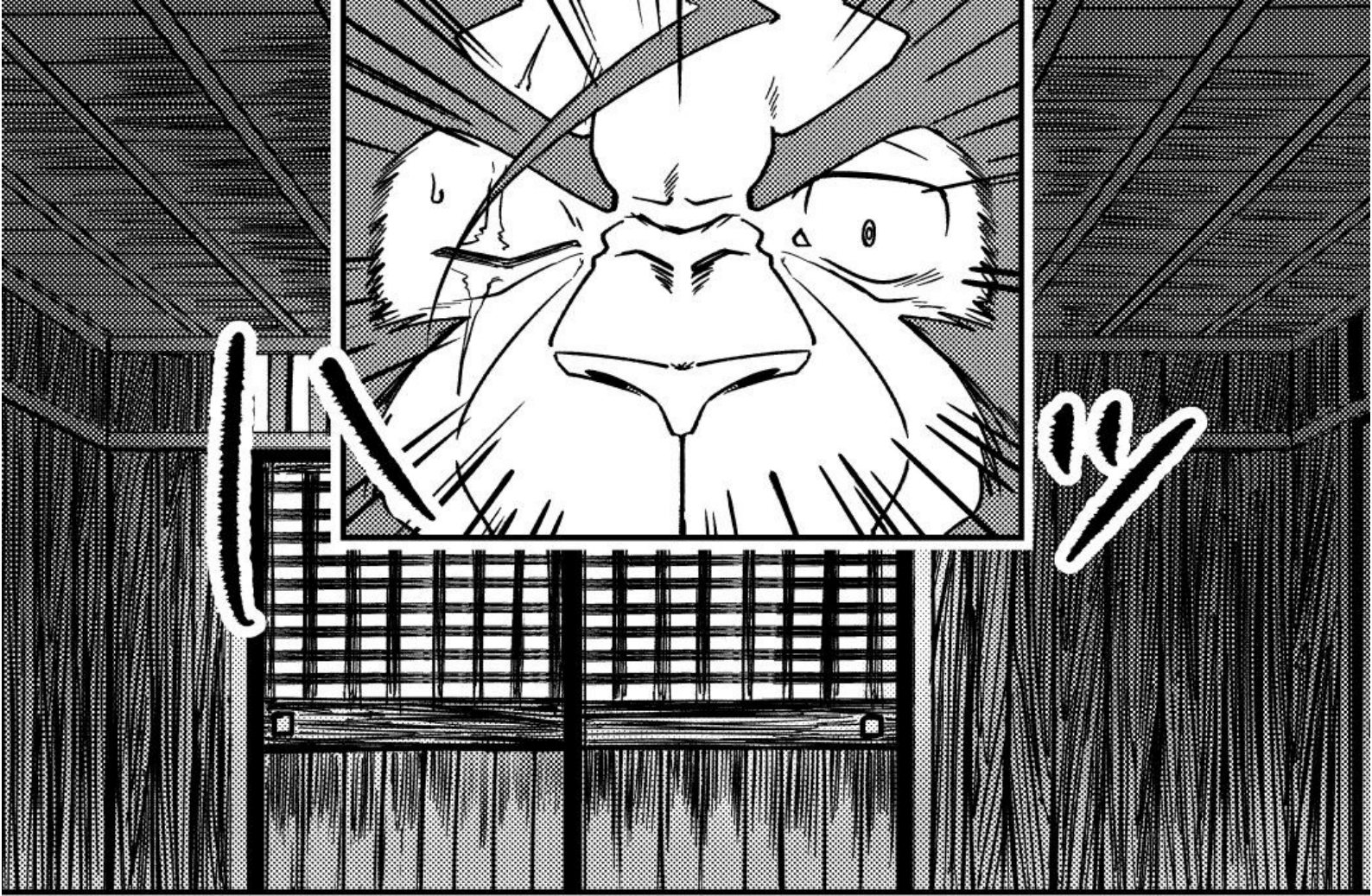
ムム…  
ムムムム…

良い…  
良いぜえ  
ダンナ

見てみな  
興奮して  
魔羅が  
もうたまんなく  
なっちまった  
じゃねえか

ああ…

命がけで  
殺し合うと  
しようじゃねえか：





ん...

ようダンナ  
目が覚めたかい

12/11



怪我の調子は  
どうだい



タチキリ...?



怪我など  
どうでもいい!

貴様は一体  
俺に何をしたんだ!

なぜ俺の中にいた!?

あの  
大きな狐はなんだ!

なぜ貴様が俺の中に  
入ってこられた!?

なにより…

なぜお前は  
俺を抱いた…？

あんなに…

あんなに嫌だった  
はずなのに…

あの時の事を  
思い出し

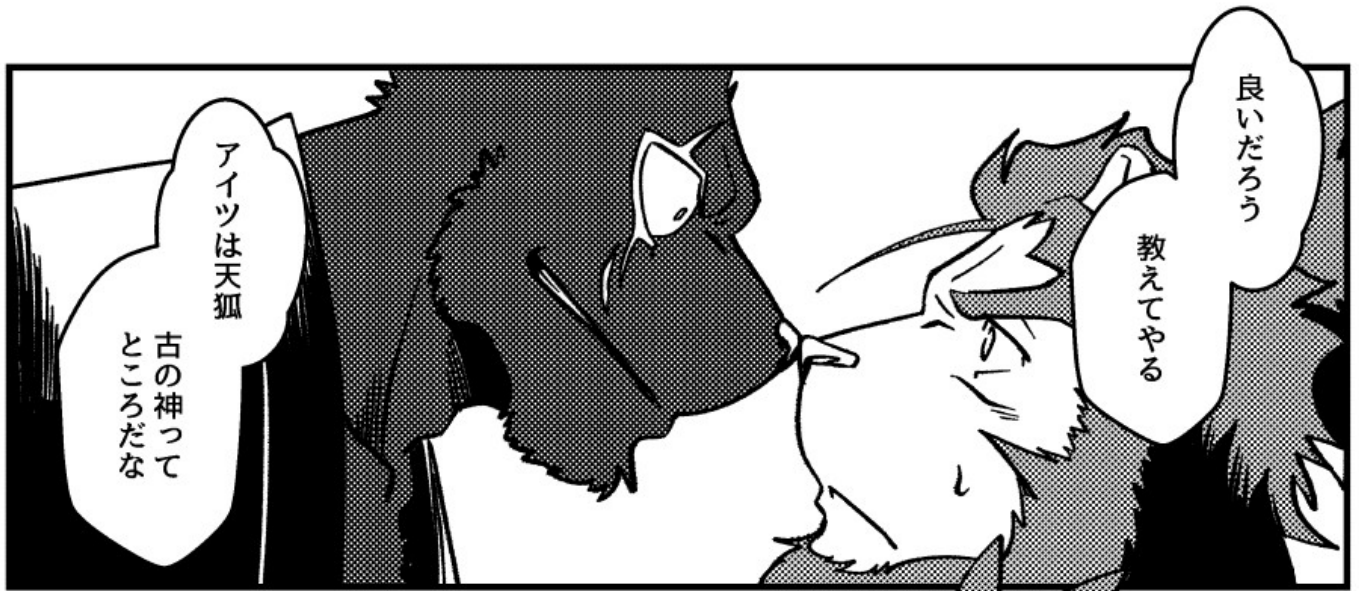
何度も何度も  
……自分を慰めた…

それでも  
身体の熱が  
冷めぬのだ……

答えろ  
タチキリ…

お前は  
俺の身体に  
何をしたんだ…

クククク…



アイツは天狐  
古の神って  
ところだな

良いだろう  
教えてやる



ダンナが  
元いたとこの  
頭領が  
ダンナの中に  
埋め込んだ

天狐は俺を  
気に入ってる  
からな

ダンナの  
その俺に対する  
固執は  
ダンナの精神と  
天狐の精神が  
癒着し始めてん  
じゃねえか？



ダンナの所の頭領は  
ダンナを最強の殺戮者に  
する為に天狐をダンナに  
埋め込んだ

俺がダンナの腕を  
斬った時点で  
その計画はダンナの  
弟子に移ったんだ  
だろうな

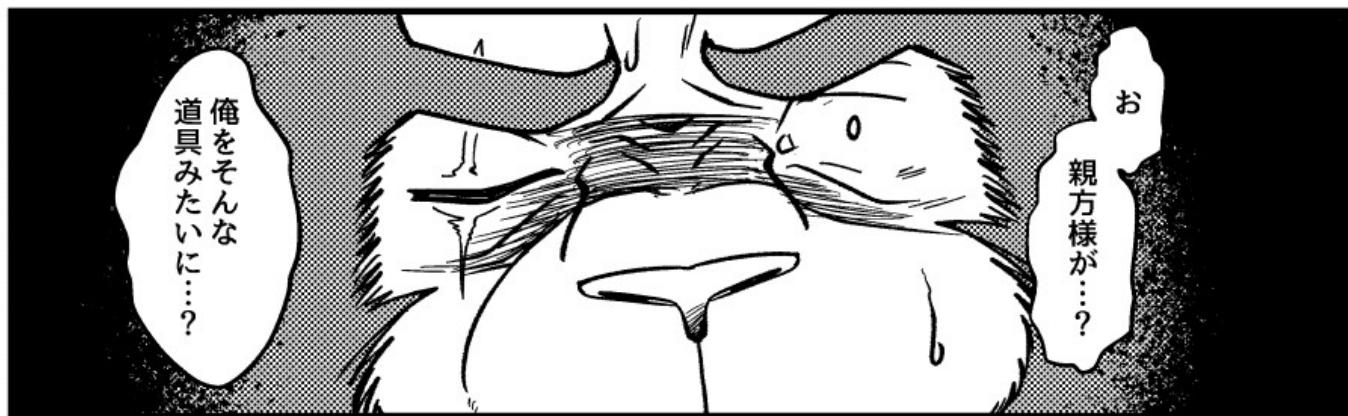
片腕じゃ  
最強の殺戮者は  
作れねえからな

用済みになった  
ダンナは晴れて  
自由の身つてわけだ

だが頭領にとつて  
計算外だったのが

天狐はダンナの中  
に精神が入って  
居たことに  
まさか  
居たこと  
だ

天狐はダンナを  
そのうち全部  
乗っ取る気で  
いるみたいだぜ





嫌なこった

前も言ったが

死にてえやつを  
殺しても何も  
面白くねえ

テメエが  
生きてたくて生きてたくて  
仕方なくなったら

殺してやる



なら……

なら  
俺が壊れるまで

滅茶苦茶に  
抱いてくれ



そういう  
事なら



お安い御用だ



俺のご機嫌  
取りながら  
しっかりと  
ねぶっておけよ

じやないと  
挿れてやらねえ  
からな



そんなに  
魔羅が  
好きなのか？

いいぜ  
物欲しげな  
顔しやがって

ゴク

ゴク



こつちに  
ケツ向けて  
おねだりしてみな

何が欲しいのか  
ハッキリとな

タチキリ……

頼む……

俺の……  
俺のこの  
見窄らしい穴に

お前の  
遅しい魔羅を  
おさめてくれ……

クク……

そんな獣みたいな  
恰好でと言った  
覚えはないがなあ

なっ……!



後ろから  
犯されるのがよほど  
好きなんだろ

黙みてえによ

お前の魔羅が...  
欲しい...

は、早く...  
挿れてくれ...

うっ...  
うっ...



頼む...

焦らさない  
でくれ...

そんなに  
欲しけりゃ



くれてやる

おれ様

お

みつともねえなあ  
魔羅ねじ込まれて

良いか？

悦ぶなんざなあ

テメエは  
罰のつもりかも  
知れねえが

これじゃあ  
ご褒美じゃねえか

イイツ！

イイツ……！

オラ

ケツに魔羅  
挿したまま  
こっち向いて  
みな

おうおう

そんなに  
良いのか

触ってもねえのに  
どんだん汁が溢れて  
きてるぞ

くっしょん

恥ずかしく  
ないのか？

うーっ…

うーっ…





夕チキリい…

頼む…

なんだ？

おねだりか？

□を……

□を吸っては  
くれまいか…

なんだ  
生娘みてえな事  
言って

頼むっ！



…俺の玩具に  
なるか？

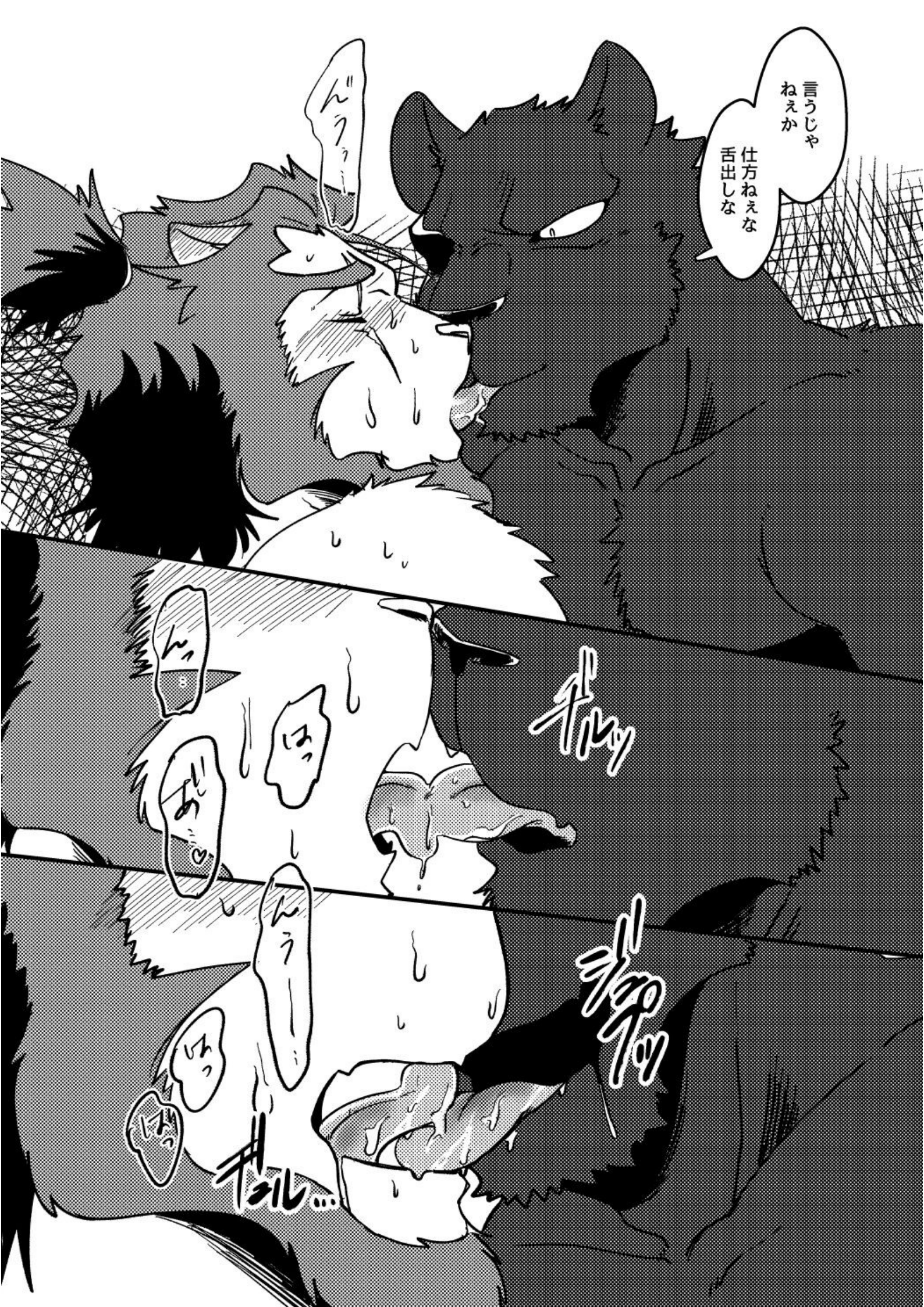
矜持や  
尊厳なんて  
何もない

ただの俺の  
処理の為の  
玩具に

なるっ！  
なります！

使い捨ての  
物の様に  
扱ってくれ…！

お前の魔羅を  
もらえるなら  
俺は何だってする…！



言うじゃ  
ねえか

仕方ねえな  
舌出しな

んううう

しゅ

しゅ

んううう



嘘だ…!!  
触ってないのに…!!

ギヤヒヒヒ!  
口吸いで気をやるたあ  
本当に生娘のなつた  
みてえじゃねえか!

情けねえなあ  
ダンナ!

ヒッ  
ツッ

これから  
時間をかけて  
テメエを仕上げやる

俺の小便や糞も  
悦んで口にする  
奴隷に仕立て上げて  
やるからな

ギャビビ---

嬉しくてお漏らし  
しちゃったみてえだなあ!

あゝ  
あゝ

アハハハ

アハハハ

アハハハ





あーっ

あーっ

オラッ!

ご褒美だ

ビュービュー  
ビュービュー

噴き上げやがって

はっ

ケツだけでこんなに  
悦べるなら

魔羅なんて  
いらねえじゃねえか

はっ



綺麗に舐めろよ

テメエのその  
薄汚え口でな

今日の仕上げだ

アッ  
アッ  
アッ

テメエの所有者の  
目を見ながら  
汁を噴き上げてみな

できるだろ

テメエみたいなら  
浅ましい身体なら

俺は  
何度も何度も

種汁を尻に  
注ぎ込まれ

それ以上の汚汁を  
噴き上げた

尻で感じる快楽と

タチキリからの  
尊厳の欠片も無い  
言われように

何もかも  
どうでもよく  
なるほど

ただただ  
興奮していた



誌 名 KATANA4  
発行日 2019年4月29日  
発 行 花吹雪ゴリラ  
発行者 ゆうご

PIXIV:3346541

Twitter:@u5rilla\_ktzk

このお話はフィクションです。  
実在の人物、団体、組織等とは  
一切関係ありません。

この本をネットオークションに  
出品したり、インターネット上に  
転載しないでください。